

## 11 作図の手順

### ■等値線解析

右図(上)のように、各観測点における気温が明らかであるとき、 $8^{\circ}\text{C}$ ・ $10^{\circ}\text{C}$ ・ $12^{\circ}\text{C}$ ・ $14^{\circ}\text{C}$ の等温線を引くことを考える。

例えば、 $10^{\circ}\text{C}$ の観測点の真上（もしくは、そのすぐ近く）を $10^{\circ}\text{C}$ の等温線が通るのであることが明らかであるが、 $10^{\circ}\text{C}$ の観測点は2つしかない。これでは $10^{\circ}\text{C}$ の等温線がどの場所を通るのがよく分からない。そこで、他の観測点を利用して、 $10^{\circ}\text{C}$ の等温線が通る位置を推定することを考える。

右図(中)では、 $8^{\circ}\text{C}$ の観測点と $11^{\circ}\text{C}$ の観測点を赤い直線で結び、その直線を3等分している。もし、両地点の間における水平温度傾度が一定であると仮定すると、線上における2つの点は「 $9^{\circ}\text{C}$ 」と「 $10^{\circ}\text{C}$ 」を示すと考えることができる。青線や緑線も同じ要領である。このように、2つの観測点の間における値を按分(比例配分)することにより、求めたい等値線の位置を推定していくのである。

等値線が通る点がある程度求まった段階で、滑らかに線を引いていく。作図例が右図(下)である。慣れてくれば、丁寧に按分して値を求めなくても、目分量で等値線の通るべき位置が分かってくるので、短時間で線を引くことができる。

